

財団法人江原積善会 積善病院



はじめに

積善病院は、昭和28年に現理事長江原良貴氏の祖父猪知朗氏により財団法人として開設され、現在329床の定床です。当院の病院理念は「病気とともに、人を見る」で、医師・看護師協力して、もっぱら患者さん・患者さんの家族のみなさんに「やさしさ」を提供しています。当院は、精神科デイケア、老人デイケア「榎」、訪問看護「レモン」、訪問介護「オリーブ」、地域支援センター「虹」「ネクスト」、その他、総合検診センター「ES クリニック」も運営しています。また、先代滋氏により別の社会福祉法人も設立され、社会福祉事業として、軽費老人ホームES ガーデン、特別養護老人ホームES サウスヒルズ、ケアハウス・オークパーク、救護施設ニュー三楽園、救護施設三楽園、授産施設友楽荘、精神障害者グループホームと、多彩な施設運営をしており、高齢者をはじめ、広く精神障害者支援を実施し同時に地域の人々の健康診断の役割を担っています。

現 況

津山市は、広域合併後人口約10万人を超えましたが、周辺の5郡（久米、勝田、英田、真庭、苦田）を含めて10数万人の診療区域になります。時には、兵庫県からも受診があります。岡山県北部山間部にあり、高齢化、過疎化も進んでいます。この地域には、他の2つの精神科病院もあり合計829床の精神科ベッドがありますが、常勤医師は岡山大学精神科教室の同門が殆どです。津山地域、県北の医療環境としては、津山中央病院が ER 型救命救急を行っており、精神科における身体合併症の治療に津山第一病院とともに協力していただいておりますが、当院からもリエゾン往診を行っています。また当院は、津山中央病院が臨床研修病院のため、精神科研修の協力型病院で、研修医が年間を通じて研修をしています。

精神科医療の現状と展望

精神科も近年の身体医療の急速な進歩と歩みを同じくし、診断分類の変化、治療・処遇の進歩で閉鎖病棟

は減り、地域へ患者さんが住み、地域で治療するようになりました。また、診断機器の発達は、脳の機能的解剖の進展となり、さらに、薬物は副作用が少ないものになったこともあり、精神科の敷居は低くなったようです。このため、入院が減少し、外来治療が著しく増加しています。病気の種別としては、分裂病から病名の変った統合失調症が、現在の若年人口の減少もあるせいかなくなり、かわって老年期認知症、「うつ病」が著しく増加しています。新ICD10診断分類でも、一昔前の「三大内因性精神病」として、統合失調症、躁うつ病とともに、精神科の主たる疾患であった？「てんかん」が、神経内科、脳外科でも治療されておりICD10の精神疾患の診断分類項目にはありません。精神科医としてのてんかん専門医も減っています。また近年、小児・思春期精神科の変化は、自閉性発達障害、注意欠陥多動性障害、特異的発達障害の精神科受診の増加をもたらした、この面での精神科病院の果たす役割も大きなものがあります。しかし、児童・思春期の専門医は少なく、初診の予約に数ヶ月以上待ちの病院があるという状態です。交通事故による頭部外傷、脳腫瘍や脳血管障害、脳炎後遺症などによる高次脳機能障害もまた精神科医療に多くのものを要請しています。しかし、このところの「医療崩壊」は、精神科も同じであり、若手医師の開業の著しい増加とともに、精神科病院の常勤精神科医の不足となりそれが、常勤医の負担の増加となり、精神科病院は看護師の不足とともに苦しい状況です。当院も後期研修を含め、常勤医募集中です。また、殆どの診療科が専門医を早くから作っていましたが、精神科も患者

さんの意思に反した入院即ち「医療保護入院や措置入院」を強行可能な資格である厚労省の「精神科指定医」のほかに、昨年よりようやくのこと精神科医療の中核である精神神経学会で「精神科専門医」の制度が始ま

りました。この先は、他科同様、精神科も専門医の時代となると思われます。当院は精神科専門医の研修指定病院にもなっています。チームワーク医療，地域連携医療，専門医療において精神科病院への需要は極め

て多く、当院も職員をあげて努力していきたいと思っています。

平成20年 8 月受理

〒708-0883 岡山県津山市一方140

電話：0868-22-3166 FAX：0868-22-6527

E-mail：sekizen@minos.ocn.ne.jp

http：//www.sekizen.or.jp/